



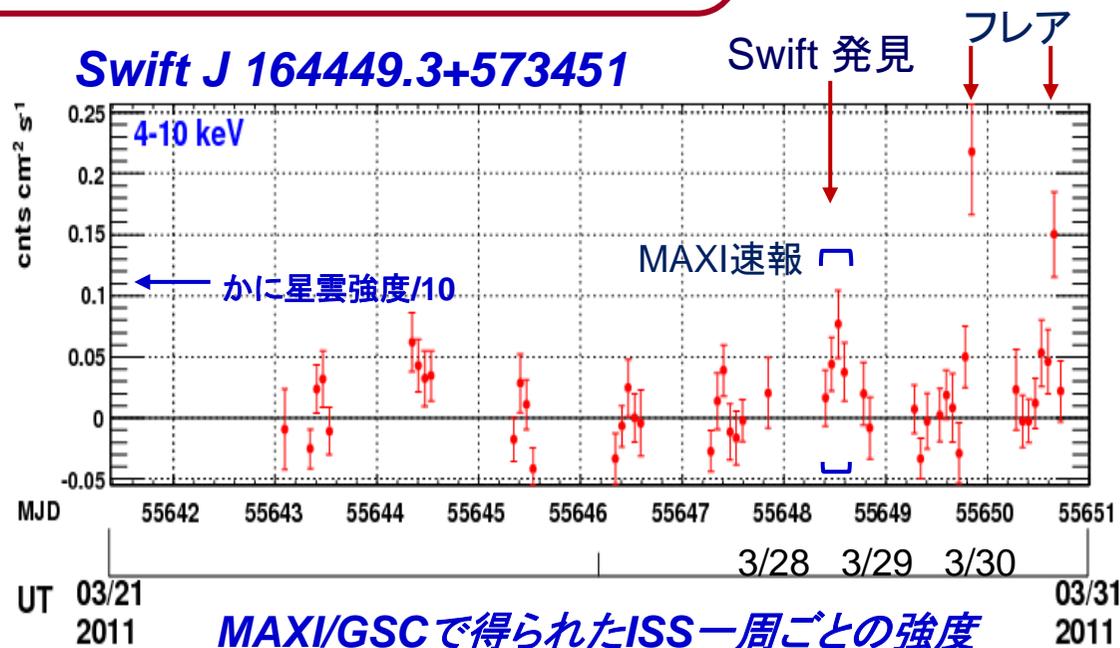
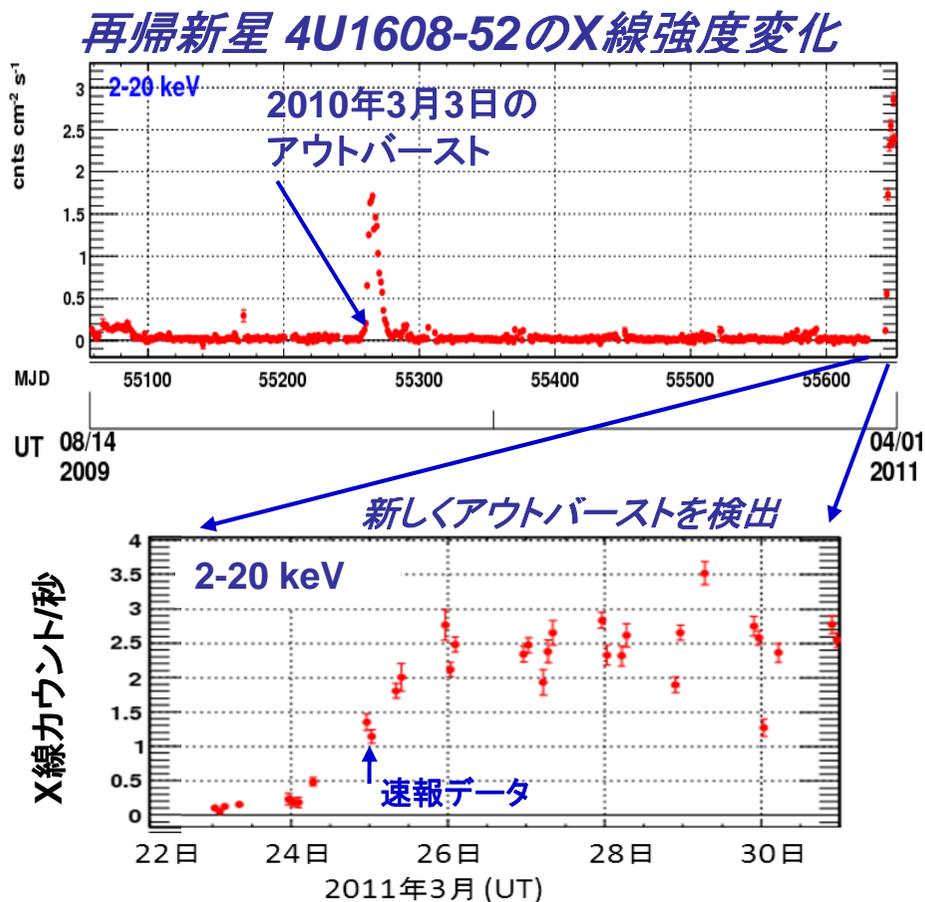
MAXI観測システムの復旧後に2つの速報

2011年4月4日

MAXI チーム(KMTM)

- 2011年3月11日14:46(JST)に発生したM 9.0の東北地方太平洋沖地震により、筑波宇宙センターにあるMAXIデータ処理室も損傷を受けました。
- このため、MAXIの運用が地震直後から3月17日まで出来ませんでした。関係者の復旧作業により3月18日に試験的に運用設備を立ち上げデータを取得しました。また、3月25日にはMAXIの観測データをノーバサーチシステムにも流せました。
- MAXIの観測データが流れた直後、中性子星が普通の星と連星になっている再帰新星;4U 1608-52が2010年3月3日以来([MAXIサイエンスニュースNo.009](#))、再度増光していることを見つけ、速報([Atel#3237](#))しました。
- その後、3月28日には、Swift衛星が見つけた新トランジェントX線天体の情報が入り、MAXI地上系が自動的にこれを捉えました。この結果、早速、新天体の確認とMAXIが得意とする数日の強度変化を付けて速報([Atel#3244](#))しました。
- 筑波宇宙センターから運用が出来なかった期間も宇宙ステーション上でのMAXIは継続して軌道上からの観測を続け、地上システムの復旧後すぐに2報の速報を発信することができました。ここに、MAXI観測システムの再起動をご報告するとともに、筑波宇宙センターの運用施設の復旧への関係者のご尽力に感謝致します。

MAXIが捉えた 再帰新星と新X線トランジェント



2011年3月25日に見つけた再帰新星4U 1608-52のアウトバーストのX線強度変化。2010年3月のアウトバーストよりも強い最高値に達した。速報:[Atel#3237](#)。

2011年3月28日12:57:45, Swift 衛星が新トランジェント天体を検出し速報([GCN11823](#))。MAXI地上系(アラートシステム)はこの情報を自動的に受け、その前後の4観測データ(図青括弧)を調べ速報([Atel#3244](#))。このX線源の位置はSwiftにより 赤経=16^h44m49.9s 赤緯=+57°35'00"と決定された。その後、この方向の誤差(1.7")内に赤方偏移 z=0.35 の銀河が見つかり([GCN11833](#))、新しい活動銀河が急にフレア活動を開始したらしい。その後もフレアが見つかり、この興味ある新天体を「すざく」で追観測することも決定された。